

## 事後評価結果（平成16年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課  
担当課長名：西村 泰弘

<b>事業名</b> 一般国道5号 <small>おしやまんべ</small> 長万部バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 北海道開発局
<b>起終点</b> 自：北海道山越郡長万部町字平里 至：北海道山越郡長万部町字栄原	<b>延長</b> 3.4 km	

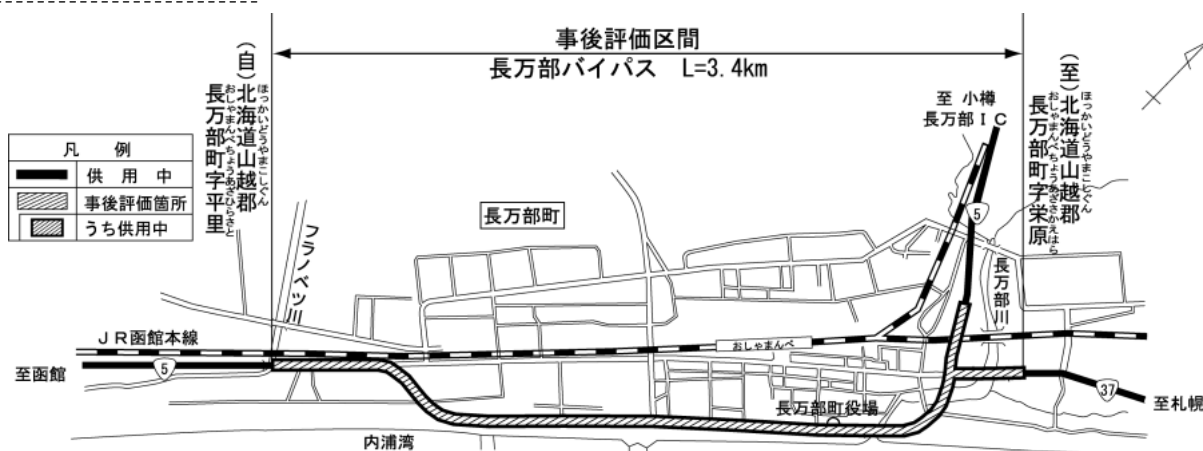
### 事業概要

一般国道5号は、函館市を起点とし、長万部町及び小樽市を経て札幌市に至る延長約282kmの主要幹線道路であり、道南圏と道央圏を連絡する重要な路線である。このうち、長万部バイパスは、長万部町市街地における延長3.4kmの2次改築事業である。

### 事業の目的・必要性

長万部バイパスは、長万部町市街地の交通混雑の緩和、交通安全の確保、沿道環境の改善を図るとともに、地域の活性化に寄与するものである。

### 事業概要図



事業の効果等	<b>事業期間</b>	事業化年度	S62年度	用地着手	S63年度	供用年	(当初)	H12年度	変動	0.9倍
		都市計画決定	S60年度	工事着手	H元年度	(暫定/完成)	(実績)	H11年度		
	<b>事業費</b>	計画時	(名目値)	/ 58.8億円	実績	(名目値)	/ 61.7億円	変動	1.0倍	
		(暫定/完成)	(実質値)	/ 58.8億円	(暫定/完成)	(実質値)	/ 61.6億円			
<b>交通量</b>	計画時	-台/日		実績	11,900台/日		変動	-%		
	(当該路線)	(工事着手時の交通量)								
	<b>旅行速度向上</b>	25	→	50 km/h	<b>交通事故減少</b>	95.6	→	20.8 件/億台キロ		
	(供用前現道→当該路線)	(供用直前年次)	H8年度	(供用後年次)	H16年度	(供用前現道→当該路線)	(供用直前年次)	H6年度	(供用後年次)	H11年度
<b>費用対効果分析結果</b>	B/C	6.5	<b>総費用</b> 104億円		<b>総便益</b> 676億円		<b>基準年</b>		H16年	
			事業費	91億円	走行時間短縮便益	650億円	走行経費減少便益	18億円		交通事故減少便益
	<b>事業遅延によるコスト増</b>	<b>費用増加額</b> 5億円		<b>便益減少額</b> -37億円						

### 事業遅延の理由

### 客観的評価指標に対応する事後評価項目

- 現道などの年間渋滞損失時間及び削減率
  - ・ 長万部バイパスを利用することにより、年間渋滞損失時間は未整備の場合に比べ、約52%削減され、平成15年度では86千人・時間/年となっている。
- 長万部町市街地を通過していた交通がバイパスへ転換したことにより混雑度が緩和され、旧道を通るバス路線の利便性が向上
  - ・ 旧道 長万部町市街の混雑度 バイパス供用前1.4 → バイパス供用後0.3
  - ・ 旧道を利用するバス路線32便

他5項目について効果の発現が見られる

	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の活性化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長万部バイパス供用後、現道を利用したお祭りやイベント等が行われ、地域の活性化に寄与している。</li> </ul> </li> </ul>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>環境影響評価、対象外事業</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●人口・産業の社会的状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長万部町では、地方部における全国的な傾向と同様に人口は減少し、高齢化が進行している。 (S60) 人口約10,300人、高齢化率約15% → (H15) 人口約7,100人、高齢化率約33%</li> <li>・長万部町における農業粗生産額及び漁獲量はほぼ横這い傾向にある。 (S60) 農業粗生産額約20億円、漁獲量約25億円 → (H14) 農業粗生産額約16億円、漁獲量約24億円</li> <li>・道南圏と道央圏を往来する交通は、増加傾向にある。 道央～道南間OD交通量 (H6) 約10,200台/日 → (H11) 約14,400台/日</li> </ul> </li> </ul>
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>長万部バイパスの供用により、長万部町市街地を通過していた交通がバイパス部へ転換され、市街地における渋滞が緩和されると共に、交通安全の確保、騒音の減少など沿道環境が改善されている。また、沿線には事業に合わせて役場や消防本部が整備されるとともに、旧国道を利用したイベントが行われるなど、地域の活性化にも貢献している。今後、大きな社会情勢や交通量の変化がない限りにおいては、今後の事後評価の必要性は生じないと思われる。また、改善措置については、今後も適切な維持管理を推進し、そのコスト縮減に努め、一層の利用促進を図ります。</p>
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>特に同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。</p>
	<p>特記事項</p> <p>特になし。</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。